

令和6年7月1日発行（第190号）

# こうじえん 耕耳苑

いわてアグリ  
ベンチャーネット  
にも掲載中！

普及センターだより

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631  
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806  
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



## 宮古水産高校で「食の匠の技公開講座」を開催

宮古地方食の匠の会は、宮古水産高校と共催で、6月14日に標記講座を開催しました。対象は同校食物科1年生28名で、「舞茸おこわ」と「ミルクわかめようかん」の調理実習を行いました。また、食の匠特待生（研修生）も生徒と一緒に参加しました。

「舞茸おこわ」は神楽栄子さんが、「ミルクわかめようかん」は熊谷裕美子さんが講師になって実演し、他の食の匠7名と先生方が生徒の調理をサポートしました。

実習後、生徒からは「ミルクわかめようかん」の意外な組み合わせに興味があったようで、「最初大丈夫かと思ったが、ミルクとわかめの組み合わせで美味しい料理ができることに発見があった」「どんな味にあるのかと思ったが、食べてみたらわかめのコリコリときな粉が組み合わさってとても美味しかった」といった感想が述べられました。

普及センターでは、今後も「食の匠」の活動を支援していきます。

【担当：佐藤】



## ブロッコリーでドローンは？

令和6年5月28日に管内の主要品目であるブロッコリーで、ドローンによる農薬散布と肥料散布の実演会が行われました（主催・宮古地方農業振興協議会）。

生産者や関係機関等約20名が参加し、ドローンの指導を行っている専門業者の方から、農薬散布の方法や追肥の留意点、ドローンの操作をするために必要なライセンスなど、ご説明いただきました。

農薬散布は、あいにくの雨模様のため、農薬の代わりに水で行いましたが、散布された水が霧状に噴霧され、風圧でブロッコリーにかかる様子を確認することができました（写真）。肥料散布は、実際に肥料（粒剤）を用いて散布し、肥料1袋（20kg）があつという間に散布されました。

【担当：細川】



# 夏季の栽培管理について

令和5年の夏は記録的な暑さにより、農作物等に様々な影響がありました。直近の3カ月予報(6月25日気象庁)でも気温が高い予報であり、高温による影響が懸念されます。今後の気象情報に注意し、被害の未然防止や軽減を図るための対策を適切に行いましょう。

<p>水稲</p>	<p>水稲は出穂期から 20 日間の間に高温(日中 30℃以上、夜間 23℃以上)に当たると、白未熟粒が発生し、玄米品質が低下します。出穂後の高温時の対策は以下のとおりです。また、幼穂形成期頃の追肥は登熟期間中の肥切れを抑制し品質向上につながります。</p> <p><b>1 水管理</b>: 出穂期から 20 日間は間断灌漑で落水期間を必ず設けて土壌を酸化的に保ちましょう。また、入水を夜間に行うと、稲体の消耗が抑制され、高温障害を軽減できます</p> <p><b>2 適期収穫</b>: 刈遅れは品質低下につながります。昨年は8月下旬に刈取適期に到達した圃場もあったことから、刈取準備は早めに済ませ、黄化籾割合 8~9 割となったら直ちに収穫に入りましょう</p> <p style="text-align: right;">【担当:小野】</p>
<p>畑作物 (大豆)</p>	<p>大豆は、開花期を過ぎると多量の水分を必要とし、乾燥が続くと減収することがあります。晴天が1週間以上続くような干ばつ時には、<u>明渠やうね間を利用したかん水を検討してください。</u></p> <p>○うね間かん水の方法(明渠とうね間が必要です)</p> <p>1 朝夕の涼しい時間帯に、圃場へ入水 2 うね間に水が行きわたったら速やかに排水</p>  <p style="text-align: right;">【担当:戸田】</p>
<p>野菜・花き</p>	<p><b>○かん水</b> 高温期のかん水は2~3l/株/日程度が一つの目安です。圃場によって必要なかん水量は異なりますので、pFメーターを活用することでより効果的な水管理ができます。</p> <p><b>○換気</b> ツマ面を開放するとより効率的に換気を行うことができます。また、ハウスの肩部分を開放し換気をすることも効果的に温度を下げる効果が期待できます。</p> <p><b>○遮光</b> 遮光率 30%の遮光資材を屋根ビニール上に被覆することにより、日最高気温が 2~5℃程度低下・高温・強日射の抑制の効果が見込め、障害果や落花の減少等が期待できます。</p>    <p style="text-align: right;">【担当:松浦】</p>
<p>りんご等果樹</p>	<p><b>1 夏季管理</b> りんごは、7~8月が翌年の花芽形成期です。日光や薬剤が樹幹内部まで通るよう誘引や徒長枝の整理を行い、樹幹内部の受光体制の改善に努めましょう。また、計画的に摘果を進め、早期に適正な着果量にします。</p> <p><b>2 日焼け対策</b> 日最高気温がおおよそ 32℃以上で、果実に日焼けが発生します。日焼け対策には、着色管理による対策の他、被服資材があります。</p> <p>○被覆資材…極早生品種「紅ロマン」では、日焼け軽減対策として、果実への白色化繊維布(商品名:サンテ®)の被覆が有効です。ただし、収穫まで被覆していると着色に影響するため、収穫の数日前に必ず取り外します。</p> <p style="text-align: right;">【担当:佐々木(絢)】</p>

飼料用作物	<p><b>牧草の収穫は暑熱期を避けるとともに、収穫時の刈取高さに注意しましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○オーチャードグラスやチモシー等のイネ科寒地型牧草の生育適温は 20~25℃程度で、これ以上暑くなると生育が停滞し、再生不良、ひどい場合には枯死する恐れがあります。</li> <li>○牧草の再生を促すために、刈取り高さ(=刈り残し高さ)は、最低でも 10 cm (握りこぶし 1 個分)残し、暑熱時は更にやや高めにします。</li> <li>○暑熱・干ばつ時の刈取りで、しばらく降雨が見込めない場合は、肥料焼けを避けるため化学肥料の追肥を可能な限り見合わせます。</li> <li>○牧草の株が減少している場合、年内ならば 8 月下旬~9月中旬にオーチャードグラスなどの永年生牧草を追播します。 【担当:西田】</li> </ul>
畜産	<p><b>畜舎の暑熱対策は、断熱、遮光、送風、換気が基本です。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○暑熱ストレスによる飼料摂取量の低下、泌乳量や受胎率の低下など生産性への影響がみられます。</li> <li>○屋根に当たった日光による輻射熱で牛舎内の温度が上昇します。ドロマイト石灰や遮熱塗料などを屋根表に塗布することで、輻射熱が低減します。屋根裏への断熱材吹き付けや屋根表への散水(天気の良い日中)も輻射熱の低減に有効です。</li> <li>○寒冷紗等で日射しを遮ります。</li> <li>○換気扇の設置・増設をします。設置済みの換気扇にホコリが多く付着していると換気効率が落ち、電気代の増加にもつながるので、掃除をして使用します。 【担当 西田】</li> </ul>

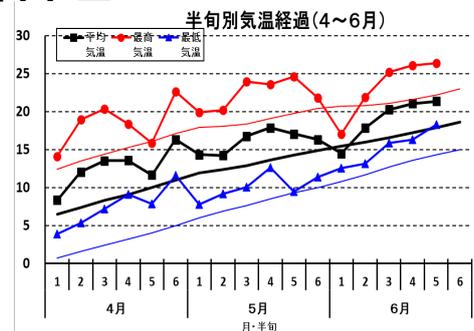
## 水稻の生育状況、今後の栽培管理について

### 1 気象経過

5月以降、6月第1半旬を除き気温は平年を上回り、日照時間も平年比110%と平年を上回りました。

### 2 生育状況(山田町豊間根の生育診断圃 6/25 調査結果)

苗の徒長がありましたが、6月に好天が続いたことから、草丈は平年差+6cm、㎡あたり茎数は平年比91~97%、葉齢は平年差+0.6枚となっています。



品種	草丈			茎数			葉数			葉色 (SPAD)		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (本/㎡)	平年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年 (枚)	平年差 (枚)	本年	平年	平年差
あきたこまち	45.3	39.5	5.8	463	478	97	9.0	8.4	0.6	45.0	42.9	2.1
銀河のしずく	49.7	43.5	6.2	441	483	91	8.9	8.1	0.8	42.4	39.5	2.9

### 3 今後の栽培管理のポイント

高温障害対策のため、追肥で登熟に必要な養分を補給し、水位や水温調節により、根の活性を維持することで、温度変化に対応しやすくなります。

#### ① 生育ステージに合わせてきめ細やかな水管理を行いましょう

- ・高温が予想されていますので、基本的には間断灌漑(3日湛水、2日落水)を行います。ただし幼穂形成期(7月中旬)から減数分裂期(7月下旬)に低温が予想される場合は深水管理を行います。
- ・出穂開花中は2~3cmの浅水で十分に水を供給しましょう
- ・出穂期から20日間は間断灌漑で落水期間を必ず設けて土壌を酸化的に保ちましょう。また、入水を夜間に行うと、稲体の消耗が抑制され、高温障害を軽減できます(再掲)

#### ② 葉色の低下を確認したら、幼穂形成期に窒素成分で1~2 kg/10aの追肥を行いましょう

【担当:小野】

## 熱中症に要注意！

令和5年の夏は記録的な猛暑となり、農林水産業等の仕事場で熱中症により救急搬送された人数は、全国で2,013人と直近5年で最多となりました(消防庁)。熱中症予防を念頭に置いて作業しましょう。

### ○熱中症対策のポイント

- 1 気温が高い状況での作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で行えるものにしましょう。
- 2 のどの渇きを感じる前に、こまめに水分補給をしましょう  
(塩分補給もお忘れなく！ つけものやスポーツドリンクがおすすめです)。
- 3 熱中症対策アイテムを活用しましょう。
- 4 立ちくらみや脱力感等の熱中症の症状を感じたらすぐに作業を中断して休憩しましょう。

熱中症対策アイテムについて特集した農林水産省のHPをご紹介します。右のQRコードからご覧ください。



熱中症対策アイテムの紹介  
(農林水産省 HP)

【担当:戸田】

## 「農薬危害防止運動」実施中です！

岩手県では、農薬を使用する機会が増える6月から8月にかけて、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬危害防止運動を実施しています。農薬とその取扱いに関する正しい知識を持ち、安全で適正な使用と保管管理を行うほか、使用現場においては周辺への配慮を徹底しましょう。

### 1 実施期間

令和6年6月1日(土) ~ 8月31日(土)

### 2 運動のテーマと重点項目

「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

- (1) 適切な防護装備の着用の徹底
- (2) 土壌くん蒸剤を使用した後の適正な管理の実施
- (3) 住宅地等で農薬を使用する際の、周辺への配慮と飛散防止対策を徹底
- (4) 誤飲を防ぐため、施錠された場所に保管するなど、保管管理を徹底

【担当:佐々木(絢)】



簡単に申込メールが送れる  
QRコードはこちら  
(メーカーが起動します)



岩手県内の農業技術情報、病害虫の情報、各地域の情報等のいわてアグリベンチャーネットの新作記事情報を配信しています。

### (編集後記)

令和6年度耕耳苑7月号をお読みくださり、ありがとうございます。

さて、令和6年は暖冬で始まり、だんだんと暑さが厳しい季節になってきました。私は熱中症予防のため、経口補水液を箱で買いました。少し値段が高いですが、用意していると安心します。皆さんもぜひご用意ください。次回は9月発行予定です。お楽しみに。(戸田)